

現場から発言相次ぐ

保険証残し 命守る選択を

11月16日、「現行の健康保険証の存続を求める」国会内集会所で開かれた「国民の医療のアクセシビリティを確保する」集会が、東京土建からは300人、東京土建からは61人が参加しました。

保団連の任江会長は開会のあいさつで、「今求められているのは国民の医療のアクセシビリティを確保する。健康保険証制度を守るための保険証の存続だ」と述べました。

次に保険証の存続を求める国会請願署名29万2495筆を鎌田さゆり衆議院議員(立憲)、野間たけし衆議院議員(立憲)、宮本徹衆議院議員(共産)、いさか信彦衆議院議員(立憲)の各氏に渡し、同時に連帯のあいさつをいただきました。

東京土建からは木村潮人書局長が代表してあいさつに立ち、「みんなで保険証廃止の撤回に一致団結しましょう、そして命を守っていきましよう」と述べました。



実行委員会から国会議員へ署名が手渡される

多数の参加で成功

高齢者大会が東京で開催



文化行事で演目を披露する前進座

【多摩・稲城 電気・高嶺 俊一通信員】11月13日、日本高齢者大会が文京シビックホールで、全国各種団体から1500人(東京土建から153人)の参加者で開かれ、会場は高齢者の熱気で燃えていました。

開会セレモニーの後、記念講演は元防衛官僚・内閣官房副長官補の柳澤協二さんから「非戦の安全保障論：戦争をしない国であり続けられるために」をテーマに講演がありました。ロシアのウクライナに対する侵略戦争、イスラエル軍とパレスチナ・ガザ地区での軍事攻撃を判りやすく、元防衛官僚の立場で話していただき会場からも拍手がわき上がりました。講演の最後には、「戦争は政治の選択・政治の熱気で燃えていました。開会セレモニーの後、記念講演は元防衛官僚・内閣官房副長官補の柳澤協二さんから「非戦の安全保障論：戦争をしない国であり続けられるために」をテーマに講演がありました。ロシアのウクライナに対する侵略戦争、イスラエル軍とパレスチナ・ガザ地区での軍事攻撃を判りやすく、元防衛官僚の立場で話していただき会場からも拍手がわき上がりました。講演の最後には、「戦争は政治の選択・政治の熱気で燃えていました。」との言葉で締めくくり、政治家を選ぶ国民の責任を訴えました。

文化行事では前進座のみなさんから三番叟などの演目が披露されました。

今日、シニア世代の生活環境は日に日に厳しくなっています。来年度から年金の実質値下げも予想されます。今こそ政権交代を「国民の選択」で行なうべきだと強く思っています。最後に次回開催地「名古屋」を確認し合い閉会しました。

ナマズ全体会を開催

防災活動も初心に帰ろう



福井さんの活動報告

【本部仕事対策部発】11月15日、2023年度のチームNAMAZU全体会が、本支部併せて31人の参加者で開催されました。はじめに後藤英雄本部NAMAZU隊長から主催者あいさつがあり、1日の講義に入りました。

午前中は、北川誠太郎本部書記次長より「建設産業と地域に視点をあてた東京土建の防災活動」と題して講演があり、「国保や賃金運動は要る。防災活動は地域に貢献する事で信頼を積み取り進む活動。結果として自治体への制度創設へとつながるもの」とした活動の特徴と、災害時における東京土建の役割や組織としての対応・行動について話がありました。

午後の講演では、墨田支部ハンマース・福井寿英キャプテンから「地域の防災力を高める活動」と題して、自主防災組織「ハンマースの成り立ち」。コロナ禍での活動停止により「防災活動も初心に帰ろう」といった声がけや、現在の防災意識を広げる活動への展開など、補足を交えた活動報告をいただきました。

会場からは、質疑やそれぞれの支部活動の特徴報告の発言があり、意見交換が活発にすすみました。

最後に、後藤隊長から今後の行動提起として、災害時における「応急修理協定に基づいた登録」と「大工職の応急木造仮設住宅登録」を呼びかけて、閉会となりました。

身近な人が亡くなる ジェノサイドは許されない

11月19日、衆議院第二議員会館前で総がかり行動が開かれました。東京土建からは26支部72人が参加しました。

日曜の午後2時、主催者の発言に続き、まず国会議員3人があいさつ。沖縄の風が吹く鉄美参議院議員は、「78年前の沖縄と今の方針が重なる」と述べ、平和のために連帯したいとあいさつしました。岩淵友参議院議員(共産)はパレスチナ・ガザでの惨状に触れ「病院攻撃は国際法違反。日本政府は休戦とも言わない」とその対応を批判。福島みずほ参議院議員(社民)は平和的生存権が全世界の人にあることを憲法が規定していることと述べ、改憲ではなく、今こそ憲法を生かした。行動は3時には終了。この日の夕方に予定されていた新宿での緊急行動・デモへの参加が呼びかけられました。

今月の主張

「二重基準」は許されない

10月7日から始まったイスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への攻撃は死者1万3千人、負傷者3万人以上を出す事態となっており、圧倒的な軍事力を持つイスラエル軍はガザ地区北部を包囲し中心部に進軍しています。

パレスチナへの攻撃では救急車の車列に空爆、避難民が身を寄せる学校への砲撃、病院攻撃の拡大で女性や子どもを含むパレスチナ人が犠牲になっています。ガザ地区北部には40万人の住民が居るとみられ、パレスチナは今ジェノサイド(集団殺害)の危機に直面しています。グテーレス国連事務総長は改めて人道的停戦の必要性を訴えました。

このような状況に国際社会から即時停戦を求める声が高まり、ワシントンでは11月4日米政府イスラエル支援に抗議するデモが数万人規模で開催され、11日に行なわれたロンドンでのイスラエル軍の攻撃に対する抗議デモにはこれまでで最も多い30万人以上が参加しています。世界各々の蛮行には触れず、ダブルスタンダード(二重基準)と批判の声があがっています。日本政府はイスラエルの国際法違反を不問に、米国の顔色をうかがい即時停戦を求めない共同声明を「重要な成果」と評価して追隨しており、その責任が問われます。暴挙・暴力を許さないとの一点で国際協力していくことが求められます。

足立支部が連合会表彰

【足立・書記・國武貴彦記】11月15日、労働保険事務組合を統括する一般社団法人全国労働保険事務組合連合会より、東京エリアの会員601組合の中から特に適用推進に功績があったとして、東京土建足立支部が表彰されました。

会場には代表として波平委員長が参加しました。労働保険は都内の中小業者の40%以上が事務組合を通じて加入し、事務組合が労働保険の普及推進に重要な役割を果たしています。特に建設業の労働保険は現場労災、事務所労災、雇用保険等、必要に応じた種類の保険に加入する必要がありますが、事業主の特別加入制度も併存する複雑な制度です。各々の事業者の目線に立った聞き取りと説明、対応が事務組合に求められます。



表彰を受ける波平委員長

足立支部は初めての従業員雇用や法人化について、サポートを行なっています。労働組合の基盤を活かし仲間同士のコミュニケーションの中で何でも相談できる環境が整っているため、日頃の相談活動から労働保険の加入促進に繋がっており、その積み重ねでこのような栄誉ある賞を受賞できたと考えています。

これからも仲間の労働保険のサポート、労働環境の向上や事故防止に事務組合として精進していきます。